

序 文



年明け早々に発生した令和6年能登半島地震は深刻な過疎高齢化が進んでいる地域を直撃し、建物倒壊などにより多くの人命が奪われ、社会インフラや地域の産業等にも甚大な被害をもたらしました。マグニチュード7.6という今回の直下型地震では、最大ランクの強震動（震度7）と共に、断層の陸域周辺では大きな地盤変動（最大4mの海底隆起）が観測されたほか、沿岸の平地部では津波、広範囲の液状化、山間部では大規模な斜面崩落や地すべり、盛土などの土工構造物の崩壊・変状が多発しました。そのため、深刻な建物倒壊に加えて、電気、水道等のライフラインや道路構造物、港湾・漁港・海岸施設にも甚大な被害が生じてしまいました。地震発生から約3ヶ月となる今も8000人以上の方々には厳しい避難生活を余儀なくされており、珠洲市などでは断水復旧の遅れで多くの被災者は不自由な暮らしを強いられています。災害はいつも突然起こりますし、地域（自然素因）と社会（社会素因）及び外力の大きさ等によっていつも異なる形で現れています。今回も地域（半島地形と脆弱地質）と社会（深刻な過疎・高齢化）の特殊性に、非常に強い外力（地震動・津波・地盤変動等）が加わり、交通網途絶やライフライン遮断等により応急対応・支援復旧・避難・地域医療などにおける様々な課題が顕在化しました。今回の地震の教訓と知見を踏まえて、南海トラフ巨大地震への備えをハードとソフトの両面で加速しバージョンアップしていく必要があります。当センターも、今回の地震による被害の現地調査をいち早く実施し、令和6年能登半島地震に関する徳島大学調査速報会を開催しました。今後も引き続き調査研究を行っていきたくと思っています。

さて、令和5年度は、当センター発足20年となり、ここに第20号の徳島大学環境防災研究センター年報を発刊し、本年度に取り組んできた事業の内容や活動の状況などをご紹介します。この20年間、国、地方自治体、関連大学・企業・団体、ならびに本学から多大なご支援を得て、順調に各種事業・活動実績を積み重ねて参ることができました。ここに改めまして関係各位に深く感謝申し上げる次第です。

当センターは環境と防災の両面から持続可能な地域づくりに貢献すべく積極的に活動しております。環境面では生態系・生物多様性に関する調査研究や、グリーンインフラ・生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の調査研究等を実施しています。令和5年度は尼崎運河環境調査や絶滅寸前の四国ツキノワグマ個体群の保護促進に関するプロジェクト型研究を実施し、個体数の減少が危惧されるカエル類に着目した保全すべき水辺やあるべき利用を検討するための調査を徳島市全域で行っています。地域・社会貢献としては勝浦川流域フィールド講座の開催やとくしま生物多様性活動推進協議会での活動等を行い、「とくしま大学環境防災カフェ」や市民向けフォーラムなどでの成果発信・発表も行っています。

当センターの防災グループは災害科学研究、各種自然災害・災害対応の調査研究を推進し、研究・調査成果を地域社会へ発信すると共に、行政、企業、団体、他の大学などと連携・協働し、防災人材育成や地域貢献活動、大学BCPの取組等を積極的に行っています。災害調査関係では、令和5年奥能登地震および令和6年能登半島地震災害調査を行い、市民向けオンライン報告会を開催しました。また令和5年6月29日からの大雨土砂災害・浸水被害調査や令和5年7月14日からの大雨による浸水被害調査、令和5年台風第13号による大雨災害調査など多くの調査を行っております。調査結果は学会などで発表し、その一部は「とくし

ま大学環境防災カフェ」や「FM徳島防災Café」などで一般向けにも公表しております。その他にも市民向けシンポジウムや講演会、公開講座を積極的に開催し、調査・研究・取組の成果などを地域社会へ広く発信しております。

防災人材育成については、四国防災・危機管理プログラムを、香川大学と連携し、香川県と徳島県の協力の下で実施しております。当プログラムでは、令和5年度に修了した第10期生24名（社会人11名、大学院生13名）を含む258名が災害・危機対応マネージャーの資格を取得しました。大学の授業や講座等による防災士養成講座については、徳島県地域防災推進員養成研修（長期・短期）、徳島大学防災リーダー育成、徳島県職員等講習会を実施すると共に、基礎自治体の小松島市と鳴門市でも行っております。

大学BCPの取り組みについては、事前対策の充実に関する意見交換や検討を行うとともに、南海トラフ地震臨時情報への対応や事前対策に関するワークショップを学内に向けて開催しました。市民防災啓発ではメディア（テレビ、ラジオ等）の他、徳島市地震・津波避難支援マップ制作、四国防災八十八話マップ作成・配布及び防災学習会等を通して精力的に活動しております。

当センターは防災研究部門、環境研究部門、災害医療研究部門、危機管理研究部門の4部門で活動を行っています。今後とも地域の持続可能性向上に向けて、地域と連携しながら取り組んでまいりますので、相変わぬご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年3月

徳島大学環境防災研究センター

センター長 蔣 景 彩